

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500613		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホームよしの		
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原字二条146番地		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、緑に囲まれゆったりとした環境に囲まれている。利用者や地域のボランティアとともに、畑で旬の野菜を育てて、利用者自らが調理や味つけをして食べている。また、好みの花を育てて自宅と同じように利用者一人ひとりが楽しんで生活ができるような環境となっている。日ごろから、地域のボランティアと音楽や書道、茶道を通して関わりをもっている。事業所の行事に定期的に参加してくれているボランティアや地域の幼稚園児、小・中学生との繋がりの輪も広がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には、同一法人の運営する事業所や地域住民に開かれた交流センターなどがある。自然豊かな環境に位置し、前庭にある畑では、地域のボランティアとともに野菜や花を育てている。利用者とともに旬の野菜を調理しており、食事の楽しみのひとつとなっている。音楽や書道、茶道を通じてボランティアとの交流を図っており馴染みの関係となっている。小学生や中学生、専門学校生の福祉体験学習の受け入れや地域住民の福祉に関する相談等に応じており、実践を通じて積みあげた事業所の力を地域に向けて発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの意義を理解し、朝礼やミーティング時等、機会あるごとに話しあい、統一した意識を持って理念を共有しケアに繋げている。	全職員が地域密着型サービスの意義を理解している。職員は、事業所理念の“話し合う、信じ合う、助け合う”をつねに意識して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校、中学校の入学式や卒業式、運動会に参加している。地域のボランティアの方が、定期的に事業所を来訪して、野菜づくりに協力してくれている。	利用者の体調に配慮したうえで、幼稚園や小学校、中学校の行事に参加している。ボランティアの定期的な来訪や地域住民による野菜の栽培・調理等の来訪があり、双方向的に交流を図っている。認知症の方に対する支援方法等に関する相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生や中学生等の体験実習を受け入れたり、地域の方々の相談に応じたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービスの実施状況や現状、評価への取り組み等について報告したり、話しあったりしている。参加者から意見や情報を出してもらってサービスの質の向上に活かしている。会議録は、廊下への掲示や職員間で回覧を行っており、家族にも見せてもらっている。	運営推進会議では、サービスの内容や事業所の現状、評価への取り組み等を報告して話しあっている。出された意見等は、事業所の運営やサービスの質の向上に反映している。会議録は、事業所内に掲示したり、職員間で回覧したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、話しあう機会を設けている。	市担当者に、利用者の暮らしぶりや事業所の考え方、取り組み状況を伝えて話しあい、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の議題に取り入れ、全職員で理解している。新聞や報道等を見て疑問等があった場合には、そのつど話しあっている。	研修会の議題に、身体拘束をしないケアに関する内容を取り入れている。全職員が、“介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為”を正しく理解している。また、新聞やテレビ等で報道があった場合には、そのつど話しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等にはなるべく参加している。勉強会やミーティング時に学ぶ機会を設け、意識統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加する機会を設けている。今までに制度を利用していた方がおり、担当者と話しあって学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時に、口頭だけでなく文書でも十分に説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけ、意見や要望等を言ってもらえるよう努めている。利用者や家族から出された苦情や意見は、報告書に記載して第三者委員に報告し、意見をもらって職員間で話しあっている。	家族等の来訪時には、職員から積極的に話しかけて意見や要望を出してもらっている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は、報告書に記載して第三者委員に報告して話しあい運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろの職務のなかで、職員の意見や提案を聞いている。また、毎日のミーティングや部会等で意見を出しあって実践に繋げている。	代表者や管理者は、日ごろの生活のなかで職員の意見や提案を聞いている。出された意見や提案は、ミーティングや介護部会の際に話しあって運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、毎日現場に来て利用者や職員と気軽に話をしている。職員一人ひとりの意見や個性を尊重している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの資格と勤続年数等を把握し、段階に応じた研修会への参加や向上心を持てる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会等に積極的に参加し、他事業所との意見交換や交流を図っている。また、同一法人の事業所と意見交換する機会も多く、日ごろのケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、これまでの状況や要望等を十分に聞きとり、利用者や家族の安心を確保できるサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話しあって、要望を十分に理解するよう努めている。家族の思いを日ごろのサービスに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話しあい、本人の状況に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、“支援する側”という意識はもたず、相互の人権を尊重し良い関係を築くことができるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に利用者の状況を報告して、家族の利用者に対する思いを確認し協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理・美容院や買い物等は、馴染みの店舗を利用している。また、ボランティアや地域の方の来訪がある。地域の行事にも参加している。	馴染みの理・美容院や店舗等へ出かけている。定期的にボランティアや地域住民の来訪があり、書道や茶道、日本舞踏を楽しんでいる。新たな人との出会いもあり、馴染みになった人たちとの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者職員は、毎日の清掃活動やお茶の時間に会話を楽しむなど、ともに時間を過ごして利用者同士の良い関係を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、連絡をとって現状を聞いており、事業所にできることがあれば支援する体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活のなかで、本人のやりたいことや現在の思いを汲みとることができるように関わっている。これまでの生活環境等を把握し、利用者一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	日ごろの生活のなかで、利用者のやりたいことや思いを汲みとるよう努めている。利用者一人ひとりの馴染みの暮らし方やサービス利用の経過等を把握し、利用者の持つ力を活かすよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から話を聞いたり、これまで利用していた事業所から話を聞いたりして、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや行動から心身状態を把握し、職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を決め、本人や家族との関わりをより良く保って意見や要望を聞くことで、現状に応じた介護計画を作成できるよう努めている。	利用者一人ひとりに担当職員を決めている。日ごろから、利用者や家族の意見等を聞き、個別に記録してミーティングやケアカンファレンス時に話しあっている。それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に応じた介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、些細な気づき等も記録している。毎日、全職員が記録を確認し状態の変化に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・意向等に応じて通院や送迎等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと情報交換を行い、相談しやすい関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。本人や家族の希望、症状等により家族にも同行していただいている。医師と密に連絡をとって体調の変化を伝えている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。家族に付きそってもらったり、職員が同行したりして、日ごろの体調や変化を医師に伝えている。医療機関と密に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との契約に基づき、健康管理や医療面での細かなことについても相談し助言を受けている。日ごろの体調変化に気づくことができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と連絡を密に図って、定期的に利用者を見舞っている。また、電話で状態を聞き、状況に応じた対応を速やかに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族に十分な説明を行っている。職員間でも十分に話しあっており、知識をもって体制を整備している。	入居時に、重度化や終末期のあり方について、事業所でも対応できることを説明している。利用者の希望に応じた医療や看護について、関係者とチームを組んでターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全職員が救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。訓練後には、消防士とともに反省会を行っている。地域の消防団の協力も得ている。	マニュアルを作成し、年2回、防災訓練を実施している。地域の消防団の協力を得て、通報や避難、初期消火訓練を実施し、反省会も行っている。関連事業所では備蓄も行っている。現在の避難所よりも近隣の避難場所を確保すべく協議を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に、職員の一方向的な支援とならないよう留意している。利用者が自己決定しやすい言葉かけに努めている。	プライバシーを損なわないような言葉かけや尊厳の保持について、ミーティングや研修時などに話しあっている。職員の一方向的な支援とならないよう、利用者の気持ちを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に応じて、本人の思いや希望を引き出せるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく生活できるよう一人ひとりのペースや希望に応じた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理・美容院へ行っている。利用者と職員は、ともに買い物に行き衣類等を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく、利用者の好むメニューに変更している。また、園庭で採れた野菜等を使ってともに料理を楽しんでいる。	献立表のみにそった食事とするのではなく、菜園で採れた野菜や近隣住民から貰った野菜、利用者の希望に応じた食材等をメニューに取り入れている。利用者一人ひとりの力量に応じ、利用者と職員がともに調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事・水分摂取量を記入しチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりにあつた口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じたタイミングで誘導している。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの力や習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、十分な水分補給と利用者一人ひとりの状態に応じた食事や運動をすることで円滑な排泄を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、9時～21時までの間、利用者の希望にそった入浴ができるよう支援している。入浴を好まない方へはタイミングを見計らって声かけしている。	利用者の希望や体調に応じて入浴できる体制を整備している。利用者一人ひとりの状況に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の体調にあわせて生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴って、すぐ確認できるようにしている。薬が変更になった時には、日誌に記録してミーティングで申し送り、全職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握し、一人ひとりが自分の得意な分野で力を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの要望に応じて、近所への買い物や気分転換の外出等の支援を行っている。また、家族や地域のボランティアの協力を得て、少し遠方への外出も支援している。	天気の良い日には車椅子を利用する方と一緒に近隣を散歩したり、家族やボランティアの協力を得て、少々遠方の紅葉狩りや菊人形を見に出かけている。職員や家族同伴でのお墓参りや、懐かしい友人宅への訪問等も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の自己管理を希望する人は、家族の了解を得たうえで少額を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話を使えるよう支援している。自分で電話をかけることが困難な方には職員がサポートしている。携帯電話やメール、ファックス等も職員がサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節にあった環境づくりを心がけている。	ホールは天井が高く、温度や湿度に配慮している。廊下には大きな天窓があり、明るい光が差し込んでくる。食後には、ピアノを弾く利用者や歌を楽しむ利用者などがおり、賑やかで楽しい雰囲気となっている。窓際の畳の間では、コタツを囲んで談笑している方もいる。テーブルの上に、菊の花を生けるなどして、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には、ソファやテーブル等を設置している。畳スペースもあり、利用者は思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、テレビ等を持ち込んでもらったり、家族の写真や貼り絵を飾ったりしている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者一人ひとりに使い慣れた家具や寝具を持ち込んでもらっている。家族の写真やちぎり絵等を飾っている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配置にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等、利用者がわかりやすいように高さを工夫し、目印をつけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの意義を理解し、朝礼やミーティング時等、機会あるごとに話しあい、統一した意識を持って理念を共有しケアに繋げている。	全職員が地域密着型サービスの意義を理解し、朝礼やミーティング時等、機会あるごとに話しあい、統一した意識を持って理念を共有しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校、中学校の入学式や卒業式、運動会に参加している。地域のボランティアの方が、定期的に事業所を来訪して、野菜づくりに協力してくれている。	幼稚園や小学校、中学校の入学式や卒業式、運動会に参加している。地域のボランティアの方が、定期的に事業所を来訪して、野菜づくりに協力してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生や中学生等の体験実習を受け入れたり、地域の方々の相談に応じたりしている。	小学生や中学生等の体験実習を受け入れたり、地域の方々の相談に応じたりしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービスの実施状況や現状、評価への取り組み等について報告したり、話しあったりしている。参加者から意見や情報を出してもらってサービスの質の向上に活かしている。会議録は、廊下への掲示や職員間で閲覧を行っており、家族にも見ってもらっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービスの実施状況や現状、評価への取り組み等について報告したり、話しあったりしている。参加者から意見や情報を出してもらってサービスの質の向上に活かしている。会議録は、廊下への掲示や職員間で閲覧を行っており、家族にも見ってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、話しあう機会を設けている。	必要に応じて、話しあう機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の議題に取り入れ、全職員で理解している。新聞や報道等をみて疑問等があった場合には、そのつど話しあっている。	研修会の議題に取り入れ、全職員で理解している。新聞や報道等をみて疑問等があった場合には、そのつど話しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等にはなるべく参加している。勉強会やミーティング時に学ぶ機会を設け、意識統一を図っている。	研修会等にはなるべく参加している。勉強会やミーティング時に学ぶ機会を設け、意識統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加する機会を設けている。今までに制度を利用していた方がおり、担当者と話しあって学習している。	成年後見制度の研修会に参加する機会を設けている。今までに制度を利用していた方がおり、担当者と話しあって学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時に、口頭だけでなく文書でも十分に説明し納得していただいている。	利用契約時や解約時に、口頭だけでなく文書でも十分に説明し納得していただいている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけ、意見や要望等を言ってもらえるよう努めている。利用者や家族から出された苦情や意見は、報告書に記載して第三者委員に報告し、意見をもらって職員間で話しあっている。	家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけ、意見や要望等を言ってもらえるよう努めている。利用者や家族から出された苦情や意見は、報告書に記載して第三者委員に報告し、意見をもらって職員間で話しあっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろの職務のなかで、職員の意見や提案を聞いている。また、毎日のミーティングや部会等で意見を出しあって実践に繋げている。	日ごろの職務のなかで、職員の意見や提案を聞いている。また、毎日のミーティングや部会等で意見を出しあって実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、毎日現場に来て利用者や職員と気軽に話をしている。職員一人ひとりの意見や個性を尊重している。	管理者は、毎日現場に来て利用者や職員と気軽に話をしている。職員一人ひとりの意見や個性を尊重している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの資格と勤続年数等を把握し、段階に応じた研修会への参加や向上心を持てる機会を設けている。	職員一人ひとりの資格と勤続年数等を把握し、段階に応じた研修会への参加や向上心を持てる機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会等に積極的に参加し、他事業所との意見交換や交流を図っている。また、同一法人の事業所と意見交換する機会も多く、日ごろのケアに活かしている。	グループホーム部会等に積極的に参加し、他事業所との意見交換や交流を図っている。また、同一法人の事業所と意見交換する機会も多く、日ごろのケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、これまでの状況や要望等を十分に聞きとり、利用者や家族の安心を確保できるサービス提供に努めている。	本人や家族から、これまでの状況や要望等を十分に聞きとり、利用者や家族の安心を確保できるサービス提供に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話しあって、要望を十分に理解できるよう努めている。家族の思いを日ごろのサービスに反映できるよう努めている。	家族と話しあって、要望を十分に理解できるよう努めている。家族の思いを日ごろのサービスに反映できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話しあい、本人の状況に応じたサービスを提供できるよう努めている。	本人や家族と十分に話しあい、本人の状況に応じたサービスを提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、“支援する側”という意識はもたず、相互の人権を尊重し良い関係を築くことができるよう取り組んでいる。	職員は、“支援する側”という意識はもたず、相互の人権を尊重し良い関係を築くことができるよう取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に利用者の状況を報告して、家族の利用者に対する思いを確認し協力関係を築いている。	随時、家族に利用者の状況を報告して、家族の利用者に対する思いを確認し協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理・美容院や買い物等は、馴染みの店舗を利用している。また、ボランティアや地域の方の来訪がある。地域の行事にも参加している。	理・美容院や買い物等は、馴染みの店舗を利用している。また、ボランティアや地域の方の来訪がある。地域の行事にも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者職員は、毎日の清掃活動やお茶の時間に会話を楽しむなど、ともに時間を過ごして利用者同士の良い関係を保てるよう努めている。	利用者職員は、毎日の清掃活動やお茶の時間に会話を楽しむなど、ともに時間を過ごして利用者同士の良い関係を保てるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、連絡をとって現状を聞いており、事業所にできることがあれば支援する体制を整えている。	契約が終了しても、連絡をとって現状を聞いており、事業所にできることがあれば支援する体制を整えている。	
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活のなかで、本人のやりたいことや現在の思いを汲みとることができるよう関わっている。これまでの生活環境等を把握し、利用者一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	日ごろの生活のなかで、本人のやりたいことや現在の思いを汲みとることができるよう関わっている。これまでの生活環境等を把握し、利用者一人ひとりの力を活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から話を聞いたり、これまで利用していた事業所から話を聞いたりして、生活歴の把握に努めている。	利用者や家族から話を聞いたり、これまで利用していた事業所から話を聞いたりして、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや行動から心身状態を把握し、職員間で情報共有に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムや行動から心身状態を把握し、職員間で情報共有に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を決め、本人や家族との関わりをより良く保って意見や要望を聞くことで、現状に応じた介護計画を作成できるよう努めている。	利用者一人ひとりに担当職員を決め、本人や家族との関わりをより良く保って意見や要望を聞くことで、現状に応じた介護計画を作成できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、些細な気づき等も記録している。毎日、全職員が記録を確認し状態の変化に注意している。	個別記録には些細な気づき等までも記録している。毎日全職員が記録を確認し日々の変化に注意している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・意向等に応じて通院や送迎等の支援を行っている。	本人や家族の状況・意向等に応じて通院や送迎等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと情報交換を行い、相談しやすい関係を築いている。	地域包括支援センターと情報交換を行い、相談しやすい関係を築いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。本人や家族の希望、症状等により家族にも同行していただいている。医師と密に連絡をとって体調の変化を伝えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。本人や家族の希望、症状等により家族にも同行していただいている。医師と密に連絡をとって体調の変化を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との契約に基づき、健康管理や医療面での細かなことについても相談し助言を受けている。日ごろの体調変化に気づくことができるよう努めている。	訪問看護事業所との契約に基づき、健康管理や医療面での細かなことについても相談し助言を受けている。日ごろの体調変化に気づくことができるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と連絡を密に図って、定期的に利用者を見舞っている。また、電話で状態を聞き、状況に応じた対応を速やかに行えるよう努めている。	医療関係者と連絡を密に図って、定期的に利用者を見舞っている。また、電話で状態を聞き、状況に応じた対応を速やかに行えるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族に十分な説明を行っている。職員間でも十分に話しあっており、知識をもって体制を整備している。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族に十分な説明を行っている。職員間でも十分に話しあっており、知識をもって体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全職員が救急救命講習を受けている。	定期的に、全職員が救急救命講習を受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。訓練後には、消防士とともに反省会を行っている。地域の消防団の協力も得ている。	年2回、防災訓練を行っている。夜間の訓練も行っている。訓練後には、消防士とともに反省会を行っている。地域の消防団の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に、職員の一方的な支援とならないよう留意している。利用者が自己決定しやすい言葉かけに努めている。	利用者の気持ちを大切に、職員の一方的な支援とならないよう留意している。利用者が自己決定しやすい言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に応じて、本人の思いや希望を引き出せるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの状態に応じて、本人の思いや希望を引き出せるような支援に努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく生活できるよう一人ひとりのペースや希望に応じた支援を行っている。	利用者がその人らしく生活できるよう一人ひとりのペースや希望に応じた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理・美容院へ行っている。利用者と職員は、ともに買い物に行き衣類等を選んでいく。	本人の希望する理・美容院へ行っている。利用者と職員は、ともに買い物に行き衣類等を選んでいく。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく、利用者の好むメニューに変更している。また、園庭で採れた野菜等を使ってともに料理を楽しんでいる。	決まったメニューだけでなく、利用者の好むメニューに変更している。また、園庭で採れた野菜等を使ってともに料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事・水分摂取量を記入しチェックしている。	個別記録に食事・水分摂取量を記入しチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりにあつた口腔ケアを支援している。	毎食後、利用者一人ひとりにあつた口腔ケアを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じたタイミングで誘導している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じたタイミングで誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、十分な水分補給と利用者一人ひとりの状態に応じた食事や運動をすることで円滑な排泄を支援している。	排泄パターンを把握し、十分な水分補給と利用者一人ひとりの状態に応じた食事や運動をすることで円滑な排泄を支援している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、9時～21時までの間、利用者の希望にそった入浴ができるよう支援している。入浴を好まない方へはタイミングを見計らって声かけしている。	毎日、9時～21時までの間、利用者の希望にそった入浴ができるよう支援している。入浴を好まない方へはタイミングを見計らって声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の体調にあわせて生活できるよう支援している。	利用者一人ひとりのその日の体調にあわせて生活できるよう支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴って、すぐ確認できるようにしている。薬が変更になった時には、日誌に記録してミーティングで申し送り、全職員が把握している。	個人ファイルに処方箋を綴って、すぐ確認できるようにしている。薬が変更になった時には、日誌に記録してミーティングで申し送り、全職員が把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握し、一人ひとりが自分の得意な分野で力を発揮できるよう支援している。	利用者の生活歴や趣味等を把握し、一人ひとりが自分の得意な分野で力を発揮できるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの要望に応じて、近所への買い物や気分転換の外出等の支援を行っている。また、家族や地域のボランティアの協力を得て、少し遠方への外出も支援している。	利用者一人ひとりの要望に応じて、近所への買い物や気分転換の外出等の支援を行っている。また、家族や地域のボランティアの協力を得て、少し遠方への外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の自己管理を希望する人は、家族の了解を得たうえで少額を所持してもらっている。	財布の自己管理を希望する人は、家族の了解を得たうえで少額を所持してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話を使えるよう支援している。自分で電話をかけることが困難な方には職員がサポートしている。携帯電話やメール、ファックス等も職員がサポートしている。	利用者の希望に応じて電話を使えるよう支援している。自分で電話をかけることが困難な方には職員がサポートしている。携帯電話やメール、ファックス等も職員がサポートしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節にあった環境づくりを心がけている。	季節の花を生けたり、季節にあった環境づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には、ソファやテーブル等を設置している。畳スペースもあり、利用者は思い思いに過ごしている。	ホールや廊下には、ソファやテーブル等を設置している。畳スペースもあり、利用者は思い思いに過ごしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、テレビ等を持ち込んでもらったり、家族の写真や貼り絵を飾ったりしている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	使い慣れた家具や寝具、テレビ等を持ち込んでもらったり、家族の写真や貼り絵を飾ったりしている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等、利用者がわかりやすいように高さを工夫し、目印をつけている。	時計やカレンダー、トイレ、浴室、居室の表示等、利用者がわかりやすいように高さを工夫し、目印をつけている。	